

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

市町名	小松市
所属名	長寿介護課
担当者名	中森 裕美子

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

保険者名	第8期介護保険事業計画に記載の内容				令和5年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
小松市	①自立支援・介護予防・重度化防止	○現状と課題:介護予防講座の内容が「認知症」に偏っており、フレイル予防や生活習慣病等の重症化予防等の多様なテーマについての普及啓発を積極的に行うことが必要である。 ○施策の方針:介護予防・健康づくり(フレイル予防・重症化予防・認知症の発症遅延等)についての普及・啓発	専門職を講師として地域住民を対象とした各種講座を開催し、介護予防・健康づくりに関する知識の普及啓発を行っています。	○介護予防・健康づくりについての普及・啓発 ・地域サロン等の支援を行うこまつきいき応援団(市に協力してくれる企業・職能団体)の増加 指標:令和5年度に30団体 ・健康づくり・介護予防講座の開催 指標:(前年度比)R3微増 R4増加 R5微増	○こまつきいき応援団の募集 【結果】 ・登録団体数:10団体 ・講座実績:延べ:136回、 延べ人数:2,709人 ○認知症サポーター養成講座の開催 【結果】12回 263人 ○フレイル予防機能強化型センターによるサロン支援訪問(簡易フレイルチェック、フレイル予防講話)の実施 【結果】 ・実施:50サロン 延べ人数997人	○	・こまつきいきいき応援団による講座は開催数も参加人数も増加。こまつきいきいき応援団による介護予防講座は、サロンのマンネリ化対策にも有効であり、実施の継続の他、今後も応援団として協力できる企業や団体の追加募集を行ってきたい。 ・R4年度よりコロナ禍で停滞したサロン活動の再活性化(新規参加者の募集、中断者の再参加)を目的にサロン支援訪問を実施しており、専門職(理学療法士)を講師としてフレイル予防の普及啓発を行っている。次年度も未実施のサロンに広く周知し、普及啓発を行ってきたい。
小松市	①自立支援・介護予防・重度化防止	○現状と課題:ニーズ調査では、転倒に対する不安を持つ人が半数近くみられ、過去1年間に転んだ経験がある人も3割程度いる。転倒経験や転倒に対する不安は活動や参加を制限し、フレイルの起点にもなることから、早期の把握・介入の仕組みが必要である。 ○施策の方針:早期発見と早期改善の推進	軽度フレイル状態は、元気な状態に戻ることができる可逆性の状態であり、早期に発見し、改善につなげることが大切です。多職種・多機関と連携し、通いの場や健診などを通じてフレイル状態にある方の早期発見を行う体制づくりやセルフチェックの普及を行っていきます。	○早期発見と早期改善の推進 ・フレイルハイリスクスクリーニング数 高年齢者総合相談センターによる2次訪問把握率 指標:全数把握 -いきいきサロン参加者への基本チェックリストの実施数 指標:全数把握	○フレイルハイリスク者のスクリーニング・チェックリストの実施 長寿健診の問診項目でフレイルリスク者を選定し、高年齢者総合相談センターによる2次訪問を実施 【結果】 ・把握率:166人/1,034人(R3~5の対象者実人数)(16.1%) ※R3~5の累計501人(48.5%) ○いきいきサロン参加者への基本チェックリストの実施 【結果】 ・実施サロン:210サロン ・把握人数:3,219人(71.6%) / 配布人数4,495人	○	・R3年度より後期高齢者質問票の該当数5項目以上(設問3~15のうち)に該当する者を対象として事業実施しているが、二次アセスメントの結果、支援不要の人も多く、質問票の分析等を行い、対象者選定条件について検討・見直しを実施。 よりフレイルハイリスク者を抽出できるよう設定したが、フレイルハイリスク者を把握しても、本人が希望しない等の理由で改善事業に繋げるのが難しかった。フレイル改善の必要性について高齢者総合相談センターとも共有し、必要な方を事業に繋げていくことができるようにしたい。 -いきいきサロン参加者への基本チェックリストの実施調査は3年目であり、配布した全サロンから回収することができた。今後はチェックリストの経年分析を行い、各サロンへ報告を含めサロンの必要性について理解を深めていきたい。
小松市	①自立支援・介護予防・重度化防止	○現状と課題:小松市はほとんどの町にいきいきサロンが設置されており、活動の場は十分にあると考えられるが、ニーズ調査では、2割弱の高齢者が地域活動に参加していない。未参加の理由として、生活不活発やニーズの多様化が考えられ、対象者に応じた多様な支援の創出を行っていく必要がある。 ○施策の方針:3つの「し(社会的要因・身体的要因・精神心理的要因)」への包括的な介護予防の推進	社会的要因・身体的要因・精神心理的要因に対して効果的な支援を行うには、それぞれバラバラではなく包括的に取り組む必要があります。そこで、既存の取組を整理しながら、関係機関や地域の専門職、民間企業、地域との連携を一層強化し、包括的な介護予防を推進します。	○3つの「し(社会的要因、身体的要因、精神心理的要因)」への包括的な介護予防の推進 ・多様な通いの場の充実 ・短期集中予防サービスの利用・改善 指標:(前年度比)R3維持 R4維持 R5維持 ・地域ケア個別プラン会議の開催 指標:(前年度比)R3増加 R4増加 R5増加	○短期集中予防サービスの実施 主にフレイルリスクの高い総合事業対象者に、通所と訪問を組み合わせたサービスを実施し、短期間での自立度改善を図る。 【結果】 ・参加者:282名 ○多職種による地域ケア個別プラン会議の実施 「ケアプラン会議」に外部の職種(リハ職、薬剤師)を追加し、「地域ケア個別プラン会議」として実施。「給付適正化機能」に加えてケアプランを起点とした「個別課題解決機能」「ネットワーク構築機能」「地域課題発見機能」を強化を図る 【結果】 ・開催数:69回 ・検討数:344件	○	・新型コロナウイルス感染拡大による高齢者の身体的活動と社会的交流の制約期間が長期化し、フレイル状態や介護度の悪化が顕在化している。 【参考】新型コロナウイルス発生前までは減少傾向にあった要介護認定者数が令和3年度に増加に転じ、令和4年度及び令和5年度は若干減少している。 R2.10.1現在 要介護認定者数 5,157人 R3.10.1現在 要介護認定者数 5,231人(前年度比+74人) R4.10.1現在 要介護認定者数 5,217人(前年度比△14人) R5.10.1現在 要介護認定者数 5,207人(前年度比△10人)

保険者名	第8期介護保険事業計画に記載の内容				令和5年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
小松市	①自立支援・介護予防・重度化防止	○現状と課題:後期高齢者医療について、県と比較し、脳卒中、狭心症・心筋梗塞の患者割合が高い。糖尿病の有所見者割合も県と比較して高く、腎機能低下の割合が高い。 ○施策の方針:、生活習慣病の発症・重症化予防との一体的な介護予防の推進	糖尿病等の生活習慣病は認知症の要因となり、また、心不全等、生活習慣病の重症化は、重度フレイル状態の原因となります。そこで、保健事業と介護予防事業を一体的に実施し、疾病を持っていても重症化を予防し、必要時には適切な支援を迅速に受けられるよう関係機関の連携を強化します。また、高齢者への保健指導に当たっては、高齢者の特徴を踏まえながら、実施します。	○生活習慣病の発症・重症化予防との一体的な介護予防の推進 ・高齢者の重症化予防の推進 対象者の指導率 100% ・治療中断者などへの支援 健康状態不明者の訪問 100%	○糖尿病性腎症重症化予防訪問 【結果】 ・指導率 83.3%(対象者84名、訪問等実施70名(延べ119回)) ○その他の生活習慣病等重症化予防 【結果】 ・指導率 80.6%(対象者36名、訪問等実施29名(延べ38回)) ○健康状態不明者への訪問(75歳以上で医療・介護・健診を受けていないもの) 【結果】 ・把握率 36.3%(対象者292名・実施106名)	○	・重症化予防の対象者は増加傾向。訪問指導による改善は、後期高齢者ではこれまでの生活や食習慣が根付いており、初回の指導だけでは改善まで至らないケースが多い。個人の身体状況やADL、認知機能の状態によって様々なケースがあり、一人一人の状況にあわせて支援が必要である。 ・介入後検査データを把握できたケースについては改善を確認できたが、データを把握できなかったケースについてはR6年度健診結果等で経過を確認していく必要がある。
小松市	①自立支援・介護予防・重度化防止	○現状と課題:状態に関わらず、適切な内服や健康管理ができるよう、かかりつけ医やリハビリ専門職等とのスムーズな連携が行えるような体制づくりが必要である。合わせて多種多様な健康づくり・介護予防資源・通いの場の拡充が必要である。 ○施策の方針:多職種・多機関・地域の連携による、3つの「し」対策の推進＝「し」あわせの推進	多職種・多機関・地域との連携を強化し、社会的虚弱・身体的虚弱・精神的虚弱に関する課題分析や対策の検討を協働で実施して既存の取組のモデルチェンジや、新たな取り組みの創出を推進します。	○多職種・多機関・地域の連携による、3つの「し」対策の推進＝「し」あわせの推進 ・地域ケア会議の開催 ボトムアップによる施策展開を行い、地域のニーズに即した効率的かつ効果的な地域づくりを行う 指標:(前年度比)R3維持 R4維持 R5維持	○地域ケア推進会議の開催 地域の課題に対して多職種で検討し、具体的アクションに繋げる協議体を開催する。 【結果】 ・地域ケア推進会議 4回	○	○これまでに整理されている地域課題と第8期中の取り組みについてセルフケア、サービス、サポーター、セーフティネットの4つのSの枠組みで検討し、第9期計画に盛り込んだ。今後は、それらに基づいて、さらなる課題の掘り下げや対策の検討を行っていくことが必要である。

※行は適宜追加ください。